

令和5年度（2023年度）

岡山市立オリエント美術館年報



目次

1.展示事業	1～2
2.教育普及事業	3～4
3.その他の活動	5～7
4.令和5年度の統計	8～
5.職員及び関係団体	



特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」開会式の様子

1. 展示事業

館蔵品展「シティ・ライフのはじまり、オリエント」

概要	都市生活を送る個人の楽しみや悩み、社会問題などは地域や時代によらず、共通点が多いようです。古代バビロニア王ハンムラビ（前18世紀）の法典をひもとけば、当時の社会の様子や価値観を知るだけでなく、現代社会にも共感できる一面に気づくことができます。館蔵品展では随時展示品を入れ替えながら、都市文明の揺籃地オリエントのシティ・ライフを紹介します。例えば、化粧やアクセサリなど、身近なものごとのはじまりを伝えるオリエント考古美術品を楽しむ中で、過去の都市文明とのつながりを感じていただいたことでしょう。				
会期	前年度～R5.9.3	会場	1,2階展示室	入館者(名)	10,105
会期	R5.11.25～次年度	会場	1,2階展示室	入館者(名)	6,172

特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」

概要	モンゴル帝国と大航海時代。この二つの大きな時代は、マルコ・ポーロ（1254-1324年）と彼が残した『東方見聞録』を一つの結節点としてつなげることができます。1295年、足かけ17年を中国で過ごしたマルコ・ポーロは、故郷ヴェネツィアに帰還しました。彼が残した旅行記『東方見聞録』は、大航海時代に活躍した人たちのガイドブックとなりました。この書に描かれた幻想的かつ富と黄金に満ちた東洋（中国とジパング）のイメージこそ、大航海時代を切り開く冒険心の原動力だったのです。 大航海時代は、世界史上はじめて人・物・文化の交流が全地球規模で始まった時代です。その波は日本にまで到達し、南蛮文化として華開きました。このように、大航海時代はいま我々が生きている現代社会へとつながる大きな転換点でもありました。本展は、奈良県天理市の天理参考館と天理図書館が所蔵する約200点により、シルクロードの発展から、モンゴル帝国の時代、そして大航海時代にいたる地球規模の文化交流を紹介しました。大航海時代の冒険者たちは『東方見聞録』と地理的な情報の不足した地図を手に大海原を渡りました。本展鑑賞により、彼らの夢と冒険の高揚感を追体験していただいたことでしょう。		
会期	令和5年9月16日(土)～11月12日(日) 50日間	開館時間	9時～17時(最終入館16時30分)
会場	岡山市立オリエント美術館(岡山市北区天神町9-31)		
主催	岡山市立オリエント美術館,RSK山陽放送株式会社,天理大学附属天理参考館,天理大学附属天理図書館		
特別協賛	株式会社岡住		
後援	岡山県,岡山県教育委員会,岡山市連合町内会,岡山市連合婦人会,岡山市PTA協議会,公益社団法人岡山県文化連盟,岡山商工会議所,岡山オリエント協会,岡山市立オリエント美術館友の会,山陽新聞社,朝日新聞岡山総局,読売新聞岡山市局,毎日新聞岡山市局,中国新聞備後本社		
協力	岡山市,公益財団法人岡山文化芸術創造,おかやまアーツフェスティバル実行委員会(おかやまアーツフェスティバル2023提携事業)		
入館料	一般:1,200円(前売1,000円)／満65歳以上:1,000円(前売800円)／高大生:800円／小中学生:500円 ※20名以上の団体は各当日料金から200円引き／障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名は無料		
入館者数	7,232名	担当学芸員	四角 隆二

特別展関連イベント	開催日	出演者	参加(名)
馬頭琴コンサート	R5.10.9	美炎(miho)(馬頭琴) 前田 仁(ドラムパーカッション)	148

小企画展「オリент美術館のニュー・スター誕生？」

会期	前年度～R5.4.23
概要	これまで、当館では収蔵品に範を取った「オリエン太」「トンボ玉美」などキャラクターを生み出してきました。本小企画展は強い視覚的メッセージを持った作品を厳選して紹介する一方、来館者にはこれらに範を取ったキャラクターを創作してもらいました。あわせて、人気投票を行うなど、鑑賞の動機付けに意を払った展示のあり方を模索しました。

小企画展「金属の煌めき－ラスター彩陶器－」

会期	R5.4.25～6.25
概要	「イスラーム陶器の華」と称されるラスター彩陶器は、金属のような輝きをまとったやきものです。本小企画展では、ラスター光沢の秘密に関する最新研究を解説し、その煌めきの世界をご堪能いただきました。また、会期中に展示替えを2度行い、館蔵・寄託のラスター彩陶器ほぼ全点を展示公開しました。

小企画展「オリエントの青」

会期	R5.6.27～9.3
概要	オリエントの人々は古来、美しい青色の石を好みました。青い自然石が採れる場所は限られていたので、その希少性も、青色の価値を高めたことでしょう。やがて人々は、自らの手で青色の物質を作るようになりました。本小企画展では、11世紀のイランで誕生した青釉陶器を中心に、オリエントの職人が生み出した青色の作品を特集しました。

小企画展「北イラクのマイノリティを訪ねて」

会期	R5.11.25～R6.2.18
概要	2016年から2019年にかけて、田村公祐氏は北イラクのマイノリティの実生活を撮影しました。本章企画展では、2019年に古代オリエント博物館で開催された同名のクローズアップ展と同様の内容に加えて、同氏が2023年に再度訪れた際の最新の写真を展示し、復興する北イラクの姿を伝えました。

小企画展「小さな石の世界－色彩・文様・造形－」

会期	R6.2.20～次年度
概要	古代メソポタミアの国際共通語だったアッカド語の色彩に関する最新研究をひもときながら、鮮やかな色彩と光沢、不規則な縞文様の色石で作られたビーズや容器、彫刻などを石材の色調ごとに分類し、展示しました。石製品に限定した小企画展は初めてだったこともあり、約60点に及ぶ石製の小品のうち、約20点は初公開あるいは数十年ぶりの展示公開となりました。

2.教育普及事業

①ワークショップ

オリエン太のアトリエ	全38回	講師	当館職員 靱持 彰宏(折り紙アーティスト)※1回のみ	参加(名)	1,004
------------	------	----	-------------------------------	-------	-------

ジュニア・オリエント教室	開催日	講師	参加(名)
銅板でレリーフを作ろう！	R5.7.31	川阪 理智(当館職員),伊藤 結華(当館学芸員) 横田 さなえ(当館館長),西田 早貴子(当館職員)	34
旅するからくりおもちゃを作ろう！	R5.10.21	関野 倫宏(からくりおもちゃ作家) 関野 智子(画家)	13

②特別講演会,美術館講座,ギャラリートーク

特別講演会	開催日	講師	参加(名)
イラク・クルディスタン地域、ヤシン・テベ遺跡の考古学調査： 新アッシリア帝国の東部辺境を掘る	R5.6.17	西山 伸一(中部大学教授)	42
日本国王と大航海時代	R5.9.16	天野 忠幸(天理大学教授)	45
モンゴル帝国とルネサンス -大航海時代のはじまり-	R5.10.7	巽 善信 (天理大学附属天理参考館 副館長)	45
屏風絵から読み解く海の世界 -瀬戸内海西海航路図屏風と南蛮屏風を読む-	R5.10.28	青木 智史(奈良教育大学 准教授)	33
日本のガラス -近代を中心に-	R6.2.10	齊藤 晴子(町田市立博物館 学芸員)	17
サントリー美術館ガラス・コレクション -作り手目線で味わう古今東西のガラス器-	R6.3.2	林 佳美(サントリー美術館 学芸員)	24

美術館講座	開催日	講師	参加(名)
海外出張報告 -バハレーン調査に参加しました！-	R5.4.15	四角 隆二(当館学芸員)	27
金属の煌めき -ラスター彩陶器-	R5.7.15	四角 隆二(当館学芸員)	21

ギャラリートーク	回数	解説	参加(名)
小企画展「金属の煌めき -ラスター彩陶器-	全5回	四角 隆二(当館学芸員)	64
小企画展「オリエントの青」	全4回	伊藤 結華(当館学芸員)	81
特別展「大航海時代へ -マルコ・ポーロが開いた世界-	全5回	四角 隆二(当館学芸員)	206
小企画展「北イラクのマイノリティを訪ねて」	全6回	四角 隆二(当館学芸員) 伊藤 結華(当館学芸員)	73
小企画展「小さな石の世界 -色彩・文様・造形-	全3回	四角 隆二(当館学芸員)	44

③校外学習の場としての美術館利用

小学校	全5校	講師	当館職員	参加(名)	287
中学校	全19校	講師	当館職員	参加(名)	563
高校	全8校	講師	当館職員	参加(名)	211
大学	全10校	講師	当館職員	参加(名)	162
中学校美術部(複数校)		講師	小野山 嘉木(陶芸家)	参加(名)	205

※参加人数には引率を含む

④館外における教育普及活動

公民館	講演会	全2館	講師	四角 隆二(当館学芸員)	参加(名)	47
	出張美術館	全6館	講師	当館職員	参加(名)	117
小学校	授業	全1校	講師	当館職員 ※学校教員と連携	参加(名)	33
中学校	授業	全8校	講師	当館職員 ※学校教員と連携	参加(名)	737
	共同事業	全1校	講師	当館職員	参加(名)	15
高校	授業	全2校	講師	伊藤 結華(当館学芸員)	参加(名)	84
県外美術館	協力事業	全1館	講師	西田 早貴子(当館職員) 伊藤 結華(当館学芸員)	参加(名)	18

※参加人数には引率を含む



展示室の様子

3.その他の活動

①調査研究活動

四角 隆二(主査学芸員)

活動内容	開催日	場所
国内資料調査 (MIHO MUSEUM所蔵ガラス容器の調査)	R5.12.16～12.17	MIHO MUSEUM(滋賀県信楽市)
国内資料調査 (下関市立博物館所蔵品の調査)	R6.3.15～3.16	下関市立美術館(山口県下関市)
海外考古学調査 (バハレーン王国出土ガラス容器の調査)	R6.1.11～1.24	マカバ遺跡(バハレーン王国マナーマ市) バハレーン国立博物館

伊藤 結華(学芸員)

活動内容	開催日	場所
国内資料調査 (早稲田大学考古資料館収蔵のエジプト資料の調査)	R5.9.19～9.20	早稲田大学考古資料館 本庄早稲田の森ミュージアム(埼玉県本庄市)
全国美術館会議学芸員研修会出席	R6.3.7～3.8	国立新美術館(東京都港区)
国内資料調査 (下関市立博物館所蔵品の調査)	R6.3.15～3.16	下関市立美術館(山口県下関市)

②発刊刊行物

刊行物名	備考(寄稿者等)
ラピス 第44号	オリент美術館友の会と共同発行 A4版20ページ(表紙含む) 800冊
2024年度展覧会のご案内	A4版 巻3つ折り 20,000部

③収蔵資料

美術館資料

種別	点数
土器	267
土器片	125
土製品	216
石器	601
石製品	350
彫刻	149
モザイク	15
印章・護符	441
陶器・ファイアンス	450
ガラス	550
金銀器	26
青銅器	196
コイン	528
装身具	95
染織	68
絵画・書	38
貝製品他	180
寄託品	529
合計	4,824

図書資料 令和5年度新規購入図書数(単位：冊)

種別	R4年度総数	新収蔵数	R5年度総数
外国語図書	1,318	0	1,318
日本語図書	1,380	1	1,381
外国語雑誌	3,378	22	3,400
日本語雑誌	2,867	6	2,873
合計	8,943	29	8,972

新収蔵図書

種別	図書名
日本語図書	三笠宮崇仁親王
外国語雑誌	Antiquity ほか
日本語雑誌	考古学雑誌 ほか

④実習等の受け入れ

博物館実習

学校名	期間	人数
青山学院大学,中央大学,八洲学園大学,広島大学	R5.8.8 ~ 8.12	4

職場体験学習

学校名	期間	人数
岡山市立旭東中学校	R5.5.9 ~ 5.11	2
岡山市立芳田中学校	R5.9.26 ~ 9.28	3
岡山市立瀬戸中学校	R5.11.7	3
岡山市立桑田中学校	R5.11.8 ~ 11.10	3
岡山市立竜操中学校	R5.11.8 ~ 11.10	3
岡山市立芳泉中学校	R5.11.14 ~ 11.16	2
岡山市立福南中学校	R5.11.21~11.24	2
岡山市立岡山後楽館中学校	R5.12.5 ~ 12.7	3
岡山市立上道中学校	R5.12.13 ~ 12.15	3
岡山市立操南中学校	R5.12.13 ~ 12.15	2



民族衣装コーナー

4.令和5年度の統計

入館者数一覧

来館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	26	26	26	27	28	16	26	16	23	23	25	27	289
有料小計	663	1,063	711	1,018	1,669	1,467	2,501	1,469	628	665	1,011	1,253	14,118
無料小計	246	433	977	364	1,325	1,108	614	601	227	342	544	664	7,445
その他小計	163	69	131	184	109	251	243	237	130	98	186	145	1,946
合計	1,072	1,565	1,819	1,566	3,103	2,826	3,358	2,307	985	1,105	1,741	2,062	23,509
1日平均利用者数	41	60	70	58	111	177	129	144	43	48	70	76	81

[1日平均利用者数] 小数点以下を四捨五入

5.職員及び関係団体

美術館職員

役職	氏名
館長	横田 さなえ
館長補佐	内田 英樹
主査学芸員	四角 隆二
副主査	高島 尚樹
副主査	川阪 理智
学芸員	伊藤 結華
主事	木村 涼子
会計年度任用職員	西田 早貴子

委託業者

委託内容	委託業者名
受付及び監視業務	一般財団法人厚生会
機械設備管理運転保守業務	三要電熱工業株式会社
清掃業務	株式会社サビックス

イブrik(喫茶)

業務内容
喫茶運営業務